



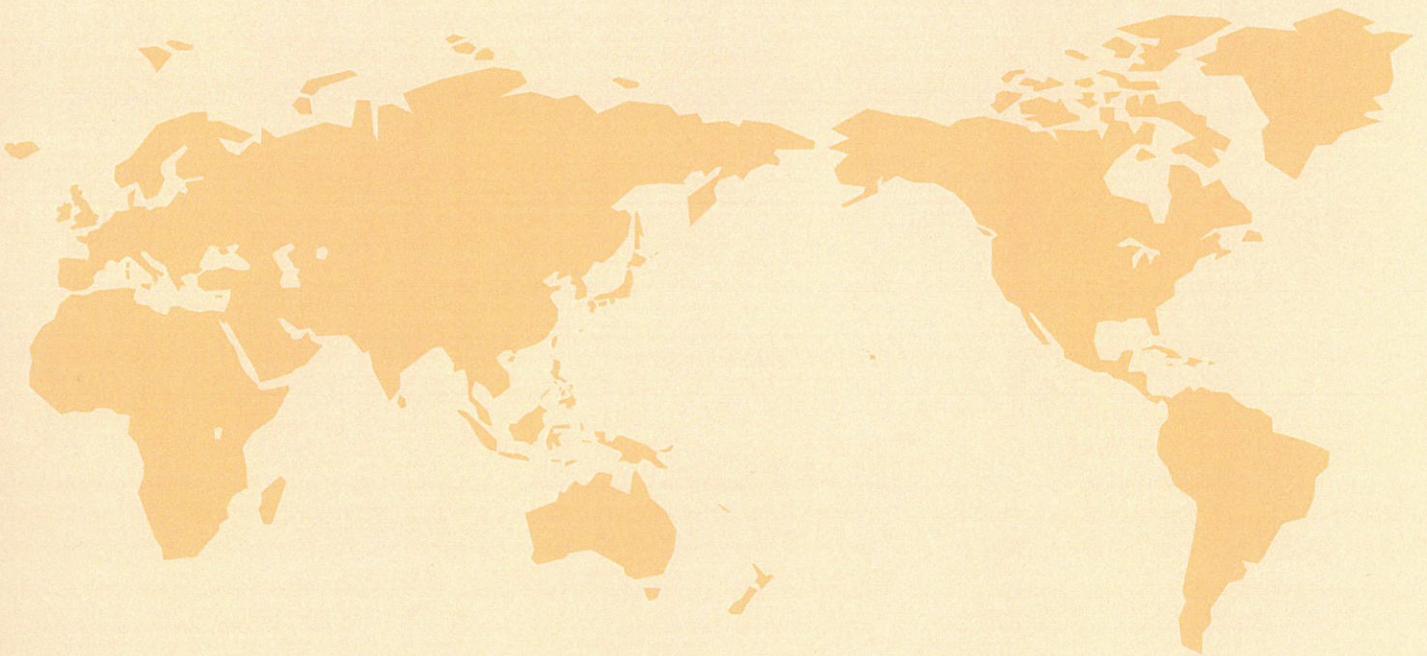
SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

文部科学省指定

平成29(2017)年度

スーパーグローバルハイスクール探究学習・活動成果報告書

「Active Dialog —共生の実現へ—」



学校法人聖心女子学院

札幌聖心女子学院中学校・高等学校

目 次

I. 発刊によせて	1
II. レジユメ・探究報告書	
(1) 高1 グローバルイシューズ	
① 東京研修	5
② ニセコ研修	9
③ 美瑛研修	18
④ タイ研修	22
(2) 高2 グローバルイシューズ	
① 江別・鹿追研修	27
② 恵庭研修	37
③ 東川研修	42
④ 美唄研修	47
⑤ タイ研修	51
III. アクションプラン実施報告書（高3）	63
IV. ニューヨーク国連研修報告	
(1) 2016年度実施分	91
① 探究報告書（事前学習、フィールドワーク、事後学習）	
② アメリカへの報告書	
(2) 2017年度実施分	116
① 探究報告書（事前学習、フィールドワーク）	
V. 発表会・掲載記事資料	
(1) S G H 研究発表会パワーポイント資料	123
(2) S G H 全国フォーラムポスター	146
(3) 北海道 S G H 中間成果報告会ポスター	147
(4) 高校生新聞掲載記事	149
(5) ニューヨーク国連研修に関する聖心会のFaceBook記事	150

内容説明

Ⅱ. レジюме・探究報告書について

高1が「人との共生」、高2が「自然との共生」というメインテーマのもとにサブテーマを設定し、探究学習を進めました。レジюмеは学校祭に合わせてフィールドワークに出るまでの段階の事前学習の内容を整理し、自分以外の生徒や来校者にわかりやすく提示するという観点で作成しました。また、探究報告書は事前学習やフィールドワーク・事後学習の内容や、今後の課題、下級生への引き継ぎ事項についてまとめました。

Ⅲ. アクションプラン実施報告書について

高3は「人との共生」または「自然との共生」いずれかのテーマ、またはその両方に関わるグローバルな課題を自ら見出し、ライフステージを考慮した課題解決策（アクションプラン）を策定いたしました。そして、そのアクションプランに定めた18歳の自分にできることについて、外部諸団体と連携して実行に移すところまでを行いました。その過程や内容を報告書としてまとめました。

Ⅳ. ニューヨーク国連研修報告

（1）2016年度実施分

フィールドワークが高校1年の終わりに実施されるため、フィールドワークの内容やそこで得た知見、見出した課題やその解決策については高校2年次に事後学習として取り組みました。その取り組みの内容について探究報告書としてまとめました。また、フィールドワークでお世話になった本校の設立母体である「聖心会（RSCJ、教育修道会）」に対して報告した研修のまとめについても掲載しました。

（2）2017年度実施分

フィールドワークに出かけるまでの事前学習や、フィールドワークの簡単な報告について、報告書としてまとめました。フィールドワークの詳細な内容や、そこで得た知見、見出した課題やその解決策については上記の（1）と同様、高校2年次の事後学習でまとめ、あらためて探究報告書としてまとめる予定です。

Ⅴ. 発表会・掲載記事資料

（1）SGH研究発表会パワーポイント

2017年10月6日（金）、7日（土）にグローバルイシューズの各フィールドワークの報告が行われました。紙面の関係上、一部のフィールドワークについて発表に用いたパワーポイント資料を掲載しました。

校長 阿部 益太郎

グローバルリーダーを目指す生徒たちの問題解決力や、コミュニケーション能力などの向上を願い、「Active Dialog — 人との共生・自然との共生 —」を目的として、取り組んでいる SGH 研究の 4 年目が終わります。

自ら学ぼうとする意欲を持つ生徒、課題を見出す目を養う生徒、課題解決策を考え実行に移す生徒、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を磨く生徒の 4 つが、本校が SGH として育てたい生徒像です。SGH の取組を進めるにあたり、本校では「フィールドワークと連動した探究学習」、「課題研究ミーティング」及び「ディベートワークショップ」の 3 つの柱からなる学校設定科目「グローバルイシューズ(GI)」を開設しています。

SGH に求められる取組の一つである課題研究として、国際的に関心が高い社会課題、地元企業等と連携したグローバルな課題に関する意見交換及び国内外でのフィールドワークと連動した探究学習については、①課題を見出し背景や現状を調べ、解決策を考える「テーマ設定とリサーチ」、②現地の実績を自分の目と耳で確かめ、取り上げた課題が適切か否かを検証する「フィールドワーク」、③情報の共有を図るとともに、共通の課題に対する多様な見方、考え方を知り解決策に反映させる合意点を見出す「ディスカッション」、④企業や国際機関とそのための交渉を行うとともに、自らがリーダーとなって主体的に取り組む「アクションプランの策定と実行」の 4 項目を設定し、様々な形で生徒たちが活動しております。

本年度の高校 3 年生は、SGH としての本格的な取組となった 2015 年度の入学生であり、1 年生では「人との共生」を、2 年生では「自然との共生」をテーマに GI に取り組んできました。3 年生となり、自分が将来に向けて課題解決のために行動していくことを目指し、集大成となるアクションプランに取り組みました。生徒が自分で、相手先企業や関係機関、NPO 法人、学校等と交渉し、プランの目的を説明し理解を得るために苦労しながら実行に移したその一つ一つが報告されています。

一方、SGH の取組当初から実施してきたニューヨーク国連研修は、国連広報部や国連日本政府代表部、聖心会など様々な方々のご支援によって、一層充実した取組となっております。生徒たちは持続可能な開発目標(SDG's)や国連の仕組み、存在意義について理解するとともに、国連とは、世界の様々な文化や視点を持っている人たちが、対話を通じて意見を交換し、一つの目標を達成する場所であると知り、それが目標達成のために必要なことを学びました。

本校卒業生の「札幌聖心は様々な活動を通して、自分が成長していることに気付かせてもらうことができた場であった。」という「ふりかえり」の言葉を心に留め、本校全体で SGH 研究の成果を分かち合うとともに、締めくくりとなる 2018 年度の研究に取り組んでまいります。

レジュメ・探究報告書

G I 探究報告書

高校 1 年 SS クラス 番 A.F

【メインテーマ】

人との共生

【サブテーマ】

東京研修 ～多文化共生のための地域づくりに必要なこと～

【探究テーマ】

日本で暮らす外国人について考える

【探究内容(事前調査)】

移民・難民の定義について

私たちがよく耳にしている「難民」とは、移民の一つである。国際移民に定義はない。広くとらえた場合、「滞在期間に関わらず本来の居住地を離れて国境を越えるか、一国内で移動している、または移動したあらゆる人」を指し、移動の理由は様々である。その中でも難民は、紛争・迫害・人権侵害などの理由により、自分の故郷を離れざるを得なくなった人のことを言う。

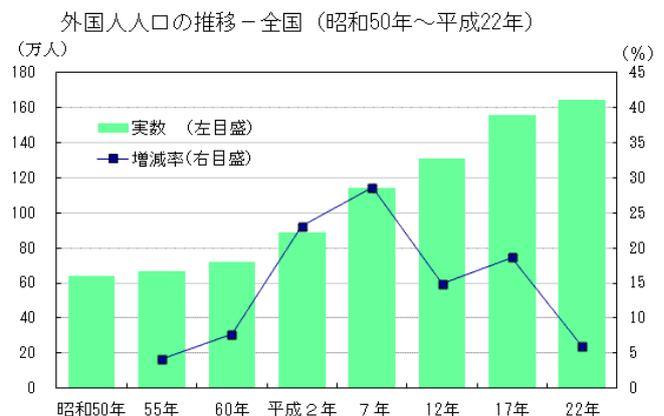
日本に暮らす外国人の数と戸籍

右のグラフを見ると、昭和55年より年々増加しているのがわかる。

日本で暮らす外国人の出身国は、韓国が21.3%と一番割合が多い。次に台湾が20.2%、中国が17.9%と、アジア系が占めている。その次に多いのがアメリカ、中国(香港)となっている。

図1 全国の外国人人口の推移

(総務省統計局<http://www.stat.go.jp/>より)



日本の外国人受け入れの条件と法令について

ビザを取得するためには、外国にある日本領事館等の在外公館で査証を受けなければならない。査証は全部で10種類(外交、公用、就職、留学、観光、一般、短期滞在、通過、医療滞在、特定査証)である。

入国管理局について

入国管理局とは、法務省の部局の一つであり、日本人・外国人の出入国審査、外国人の在留管理、難民認定などを扱う場所である。地方入国管理局、同支局・出張所などは東京を始めとする日本内に所々存在し、職員は全国様々な場で活躍している。いずれの職員も、外国人の出入国や在留の管理を通じ、国の安全と国民生活の安定、経済、文化、社会の発展の一翼を担っている。出入国管理行政に携わる職員は4145人(平成27年度現在)。

【見出した課題とその理由】

まずは、私が東京研修の事前学習で担当した入国管理局について述べたいと思う。2泊3日の東京研修の最終日に訪れたのが入国管理局である。その前に訪問していたチャイルド・ファンド・ジャパンや難民を助ける会などでは、日本の難民受け入れ数は少ないので、難民を積極的に受け入れてほしいという意見を多く聞いていた。しかし入国管理局は難民を認定するかしないかを定める場所でもあるので、きっと意見が食い違うのではないかと東京研修メンバー一同は考えていた。実際訪れてみると私が調べながら想像していた入国管理局よりも大きくて、「ここが外国人を日本に入国することを許可する場所なのか」と、この入国管理局の役割の大切さを感じた。中に入ると考えていた外国人の人数よりもはるかに多い人達がいたのだが「今日は少ない方」と説明されたことに驚いた。対応を待っている外国人が沢山いて、家族で話しながら待っている人達や携帯をいじりながら待っている男性など、疲れ切った表情の人が多かったのが印象に残っている。

そのあと、実際に入国管理局審判課補佐官と総括審査官の方のお話を伺い、意見を互いに交わした。難民に対しては、一つは「難民は助けなければならないし、困っているなら受け入れるべきだ」と考える人、もう一つは「彼らは本当に困っているのだろうか」と考えている人の二つの立場の人がいるということを知った。もっと受け入れようという場合、その難民を受け入れるということはその人の一生、もしかするとその難民の孫の世代までも受け入れるという事になる。その責任はとても重いと言える。その他にも難民が日本に移住したのはいいが、職に就くことができなくて困る事が無いのか、自分が今まで住んでいた国と日本との異文化の差に孤立しない様な生活ができるかなどが現実的な問題となると指摘された。

入国管理局の考えは、その前に訪れた団体の方から聞いていた意見とは正反対であり、私が考えていたよりも日本の難民受け入れの現状は厳しいのだと実感した。入国管理局は外国人が日本に来るにあたっての許可を出すという重要な場所である為だからか、難民の受け入れについても、単純にこれ以上増やすというよりは、とても慎重なようだ。先ほど記した通り、難民を受け入れるという事はその人のすべてを受け入れるという事なので、私が考えているより難民を受け入れるという事は責任を負うことなのだと気づいた。私は、日本はもっと難民を受け入れるべきという意見だが、入国管理局側からすると、そのためには色々と考えなければならないことが多くなる。私たち東京研修メンバーが「すべての人と共生する為にはどうしたらいいのか」を考える上で、ここが重要な課題になるのではないかと考えた。

【課題解決策】

高校生としてできることは二つある。一つ目は、日本の難民受け入れの現状を正しく知る事である。偏った情報を鵜呑みにせず、正しい知識を得る事が大切である。その為にニュースや新聞などを見て、日本の難民受け入れの現状について、一人一人が意見を持つ事が重要となってくる。高校生ができることは少ないが、今の日本について詳しく知る事は幾らでもできる。まずは社会に関心を持つ事が大切である。二つ目は、互いの文化を尊重し、理解する事である。もし私が日本以外の国で生まれてきたら、日本人が麺を食べる時に音を立ててすすむ事に驚くかもしれない。この様に、私達は自国の文化に馴染んでいるが、海外の人にとって日本の文化はあまり理解されないかもしれない。同じく、私達も海外の文化を理解し認めなければ、この問題は解決しないであろう。異文化という壁をなくすことはとても難しい課題であるが、難民や外国の方とお互いに理解し合わなければ、この課題は解決する事ができないと、私は考える。

【下級生への引継ぎ事項】

私が考えているより、課題が難しくなかなか解決する事ができなかった。私は、「日

本人はみんな難民受け入れに積極的だ」という考えのみで研修に取り組んだため、入国管理局の方のお話には戸惑った。すべての日本人が難民受け入れをするべきだと考えているわけではないという事も知った上で、研修に取り組んでほしいと考えた。入国管理局などに行く前に移民について調べたが、移民より難民について考えたほうがまとめやすいと個人的に感じたため、これから入国管理局を担当する人は難民に着目して事前学習をすると良いと思う。

【参考資料】

総務省統計局 日本の統計の中核機関

<http://www.stat.go.jp/> 2017/11/12 (図1 全国の外国人人口の推移)

『よくわかる国際移民』 ブライアン・キーラー OECD 明石書店 2010年

「出入国管理」 法務省入国管理局 2015年

『これだけは知っておきたい！外国人相談の基礎知識』 杉澤経子 松柏社 2015年

『“ようこそ”と言える日本へ』 土井 香苗 岩波書店 2005年

『日本の難民問題』 アムネスティ・インターナショナル日本 解放出版社 2004年

『日本国勢図会』 矢野恒太記念会 2016年

『多文化共生キーワード』 多文化共生キーワード辞典編集委員会
明石書店 2004年

『パスポート学』 小森宏美 北海道大学出版会 2016

ニセコと東川町との比較

kl-s

はじめに 今回私は多くの観光客が集まり海外メディアが注目されているニセコ町と道内外からの移住者が増加している東川町を色んな角度から比較しそれぞれの現在抱えている問題と注目している理由について考えてみました。

ニセコと東川の人口の変化

(年)	ニセコ	東川
1995	—	7211
2000	4553	7671
2005	4669	7701
2010	4829	7859
2015	4958	8111

約2倍



左: 報ニセコロ/wikipedia

東川の長所

- 北海道で唯一上水道が存在しない。
- 子育て支援をはじめとする福祉施策も充実。
- 本彫看板
- 写真甲子園
- 旭岳 2,290m
- 羽衣の滝 270m
- 旭岳温泉、木峠温泉 etc...

共通

- 大自然を共有する町。
- 気候を活かした野菜・花々。
- 道内外からの移住者up

ニセコの長所

- オーストラリアからの移住民の4つのスキープ
- ニセコHANZONOSTA市場
- ニセコアンビレッジ市場
- ニセコビレッジマーケット
- ニセコへの国際線市場
- 特産のじゃがいもが安く採れる
- 治安が良い
- 事故・事件の発生は少ない etc...

iju-hunter.com/wikipedia

子育て環境問題解決への取組み

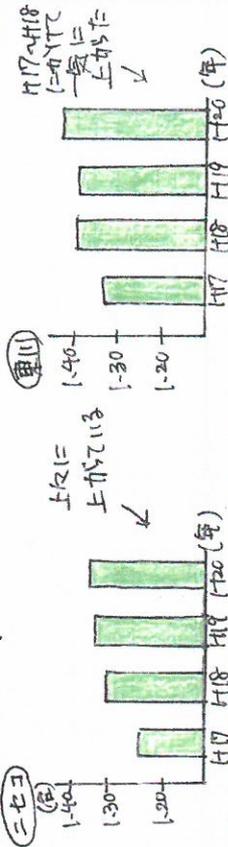
ニセコ

- 少子高齢化 → 豊かな人間性を築く機会や場が減少。
- 思いやりや自主性を創造し個性を伸ばす環境形成を阻害するおそれ
- 地域で集まれる場を形成する。一時複利準備開始。

東川

- 安心して出産育児・健康の環境のために(子どもの成長を温かく見守りたい)。
- 産まれてきた赤ちゃんに100%のプレゼント。自然や公園を増やす。
- プロのカメラマンによる記念撮影を無料にてプレゼント

合計特殊出生率



ニセコの課題

- 失業率が高い
- 消費税率から逃げる
- 買い物や便利に
- 技術継承者の増加
- 高齢者の増加に合わせる
- 活躍の場を増やす

共通

- 子育ての充実に向上させる
- 移住者により増やすことが必要

東川の課題

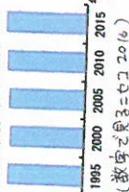
- 自然に囲まれた分自然災害への対策を怠らなさい
- 海外からの評判を今よりも増やす

iju-hunter.com

まとめ 豊かな自然環境を備え、道内外からの移住者が増加しているニセコと東川の環境を比較することで、それぞれの問題解決のための工夫とニセコが環境を活かすこと、暮らしのメリットを増やすための新たな工夫が必要なことになりました。人口増加へと導くためにはまた「課題」があります。

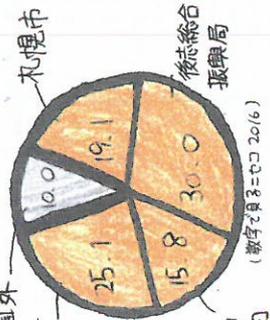
1 増えている人口はどこから??

ニセコ町の人口



ニセコ町の人口は、戦後一時増加に転じた後、1980年には1920年の半分以下にまで落ち込む。以降徐々に状態が総じていたが、2000年以降多くの市町村が人口減少するなか、増加している。

また、年齢別に人口の推移を見ると、2005年から2010年では、30~60代の人口が増加しており、比較的若い子育て世代やリタイア後の移住者が増えている。



ニセコ町への移住者

ニセコ町への移住者のうち、国外から移住してきた人の割合は10%。よって残りの90%は国内からの移住者である。2000年以降、増え続けている人口は、ほぼ国内からの移住者によるものといえる。

3. 暮らしやすさ

ニセコ町独自の制度にみるニセコ町の暮らしやすさ

子ども医療費助成

ひとり親家庭等医療費助成

農業担い手育成制度

高齢者福祉 (灯油費助成 / 配食)

中学生までの子どもは保険適用の診療について、無料で受診できる。

ひとり親家庭の場合、1割または初診時一部負担金のみで受診できる。

就農の開始時に必要とする各種資格の取得費・必要器具の所得費・居住地の確保費用に対し、100万円を上限に融資する。

町内に住むひとり暮らしのお年寄りに対して、灯油の一部を助成する / 週に1回、町内には65歳以上の人のうち、希望者に対して配食サービスをする。

子ども・ひとり親家庭・就業希望者・高齢者、幅広い世代にとって暮らしやすい制度が整っている!!

2 移住者を呼ぶニセコ町

近年、多くの市町村が人口減少するなか、ニセコ町はなぜ人口が増えているのか。それはニセコ町の移住者を呼ぶなにかとある取り組みに一つがある。

ニセコは「移住者」

「ちよと暮らし」

ニセコ町のホームページには「ちよと暮らしの紹介ページ」がある。これはニセコ町への移住を考えている人に向けて、実際に「ちよと暮らし」暮らしてみようという暮らしの魅力を伝えている。また、移住期間中の人に向けて、各種「移住者」が特別価格で利用できる。また、移住期間中の人に向けて、各種「移住者」が特別価格で利用できる。

ニセコ町

ニセコ町は、総務省のふるさとワーキングホリデー事業として実施される「ニセコ留学」を希望する学生の受け入れもしている。「ニセコ留学」とは具体的に、ニセコエリアの外資系の企業で約1ヶ月有給で働き、職場で実践的な英語でのコミュニケーションや海外の雰囲気を感じながら、若いうちに海外の労働市場に参入し、国の補給がある機会を確保している。

国内からの移住

ニセコ町の暮らしやすさ

高1GIC

農業、林業	20.9%
福祉・飲食	16.4%
建設	10.7%

(1000人を基準として1994年)

ニセコ町

従来、スキー場としての知名度は高かったが、2000年代にパウダースキーに人気があつたり、外国からの観光客が増えた。さらにラフテニウムなど、夏のスポーツの事業化により、適年型リゾートに変化した。こうして増えた観光客は、農業と観光との関係が生まれつつある。

4 働く

ニセコ町における男性の産業別就業構成のうちの上位3位 (2010) は...

〜現況

ニセコ町で働く男性のうち、約5人に1人は農業。また、林業関係がある。3の「暮らしやすさ」で紹介した「農業担い手育成制度」のように、ニセコ町では、町で就業しようとする人たちにも手厚い。

課題・疑問

ニセコ町は、町民のうち約27%が高齢者であり、この割合は日本全体の割合とほぼ変わらない。ではなぜニセコ町は手厚い補償制度を実現できているのか??

G I 探究報告書

高校 1 年 G クラス 番 氏名 Y.Y

【メインテーマ】

人との共生

【サブテーマ】

ニセコ町の町づくり

【探究テーマ】

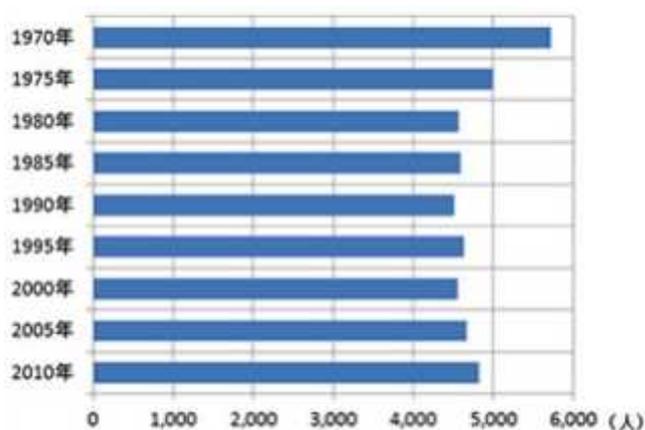
国内からの移住者と地元住民の共生のあり方

【探究内容】

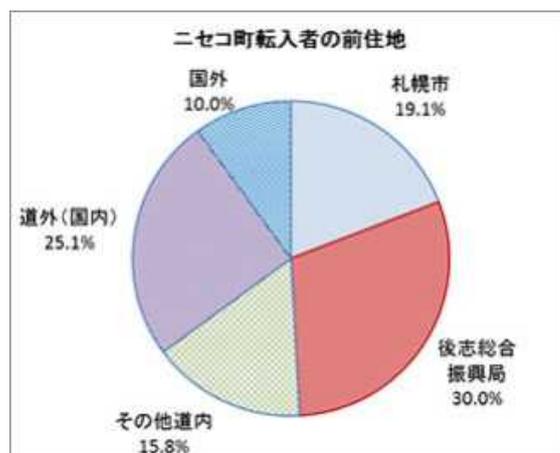
1. ニセコ町の人口

(1) ニセコ町の人口の推移

ニセコ町の人口は1920-1940年までは減少、戦後は一時増加に転じた。その後は1990年まで人口減少が続き、2000年以降、多くの市町村が人口減少する中、人口が増加している。(図1)



ニセコ町の人口の推移(図1)



ニセコ町転入者の前住地(図2)

(2) 増加している移住者はどこからきたのか

国勢調査による、ニセコ町転入者の前住地を割合(図2)を見ると、2010年に町外から移住してきた人のうち、国内(札幌市19.1%、後志総合振興局30.0%、その他道内15.8%、道外25.1%)からの移住者が9割を占めている。

2. ニセコ町で暮らす魅力

(1) ニセコ町には町独自の制度が数多くある。

- ・ こども医療費助成

中学三年生までの子どもは、保険適用の診療について無料で受診できる。

- ・ 老人世帯の私道除雪

除雪する私道の長さが公道から30m以上あり、条件のいずれかに該当する世帯に対して、降雪時に除雪を実施する。

- ・ 農業担い手育成制度

新規就農認定者の就農の開始時に必要となる各種資格の取得費・必要機械器具の取得費・居住拠点の確保費用等に対し、100万円を上限に融資する。

- ・重度心身障害者医療費助成

身体や精神に障害のある人は、一割または初診時一部負担金のみで受診できる。

(ニセコ町公式ホームページより)

このような充実した制度が、こども・高齢者・就業者・障がい者などの幅広い世代にとって暮らしやすいまちづくりが実現できている要因の一つであり、移住者にとっても魅力の一つになっていると考えた。

(2) 国内からの移住者 服部さんの場合

フィールドワークとしてニセコ町を訪れた際、実際に、関東からニセコ町に移住して農家を営む、ニセコララファームの服部さんのもとを訪れ、移住先としてニセコ町を選んだ理由を伺った。

服部さんがニセコ町に感じる魅力

- ・農業を営む上で、「ニセコ町産」はネームバリューがあり、強みになる。
- ・農家としての仕事がない冬季も、スキー場や、スキー場付近のリゾート施設に十分な働き口がある。

ニセコ町の農家にとって、ニセコ町の魅力は豊かな自然環境だけでなく、それによるネームバリューであることもわかった。夏季は農家、冬季はリゾート関連のサービス業で働く服部さんの例を踏まえて、ニセコ町における産業別就業構成を次の項目でまとめる。

(3) ニセコ町で働く

ニセコ町における男性の産業別就業構成上位3位は次の通り。

農業・林業(20.9%) 宿泊・飲食サービス(16.4%) 建設関係(10.7%)

ニセコ町はもともとスキー場としての知名度が高かったが、2000年代にニセコ特有のパウダースノーに世界中の注目を浴び、海外からの観光客が増加したとともに、投資が盛んになった。また、川下りやラフティングといった夏のスポーツが事業化したことにより、ニセコ町は通年型のリゾート地に姿を変えた。こうしてニセコ町では1年を通して起業と雇用の場が生まれている。

3. 移住者を呼び込む町の取り組み

ニセコ町の人口増加は町の移住者を呼び込む取り組みが一因だと考えられる。ニセコ町のホームページのトップページに「移住をお考えの方」という項目があり、移住者の呼び込みに力を入れていることがわかる。

- ・ニセコ生活体験「ちょっと暮らし」

ニセコ町は、町への移住を考える人たちに対して、町内の宿泊施設での長期滞在プランを設けている。この「ちょっと暮らし」を利用した人は、特典としてラフティング・気球・ゴルフなどのアクティビティを特別価格で利用できる。大自然のなかでのアクティビティが魅力である、ニセコ町ならではの特典であり、移住を考える人たちに対して良いアピールだと考えた。

- ・「ニセコ留学」

ニセコ町は、「ニセコ留学」として、1ヶ月程度、外資系企業でのインターシップや地域住民との交流や学びの場を通じて、国際リゾートエリアを体感してもら

うプログラムに参加する若者を受け入れている。

・リゾートバイト

リゾートバイトとは、北海道のリゾート地にある宿泊施設に住み込みで働きながら、休日には観光を楽しむ働き方である。また、「リゾバ」と呼ばれ、特に本州の学生から人気である。「ニセコノーザンリゾート・アンヌプリ」では、従業者の寮費や光熱費をホテル側が全額負担し、夏の繁忙期を「リゾバ」の雇用によって乗り切っている。また、同ホテルの採用担当者は「(略)働きながらニセコ町を好きになってもらえたら嬉しい」と話している。

「ニセコ留学」やリゾートバイトを通して、ニセコ町外の若者にニセコ町の特色を体感してもらい、興味を持たせることが、将来、移住先の選択肢になることに繋がると考えた。

【見出した課題とその理由】

この先も、ニセコ町への移住者は増え続けると予想されるが、その中でニセコ町に元々住む町民と移住者間の意見の相違が起ころうだろう。フィールドワークとしてニセコ町を訪れた際、町職員の方から伺った例は、町内に電波塔を立てる計画ができたとき、元々住む住民らは利便性の向上のために賛成した一方、移住者らはニセコ町の美しい景観を求めて移住してきたので、景観を守るために計画に反対したそうだ。

さらに景観保護の観点から、この先、ニセコ町に隣接する倶知安町の急速な開発によって、ニセコエリアの美しい景観が失われてしまう虞があると考えた。ニセコ町では「ニセコ町景観条例」が定められている。これにより、一定の高さを超える建築物の建設や、土地開発に対して厳しい条件が設けられているため、ニセコ町の景観は、この条例によって守られてきたと言えるだろう。しかし、倶知安町で、2019年冬までに総投資額100億円規模の大型複合リゾート施設を建設する予定があるそうだ。

また、1996年にスタートした「まちづくり町民講座」について、いつも出席する町民が一緒だという意見があるそうだ。(経済総合研究所より)

【課題解決策】

ニセコ町には「まちづくり懇談会」や「まちづくり町民講座」といった、町民がまちづくりに意見できる場が多くある。上記の電波塔の例は、このような町民同士の話し合いによって解決したそうだ。ただ、町職員の方によると、移住者は、特に自己主張が強い傾向にあるそうなので、現在の意見を主張する住民自治のかたちを、対話するかたちに変えれば、より質の高い住民自治が整うと考えた。また、外国人や、子育てに忙しい世代の町民が増えているニセコ町だからこそ、町民全員が参加出来るだけでなく、参加しやすいまちづくりの仕組みを整えるべきだと考えた。

また、地域一帯として美しい景観を守るために、同じ後志管内の町への働きかけも必要であると考えた。

【下級生への引継事項】

ニセコ町への移住者が増えていることについて、今の時点では目立った課題はないそうだが、このまま人口が増え続ければニセコ町の大事な生態系が壊されてしまうのではと思った。目の前の利益だけでなく、10年、20年先のニセコ町を見据えた課題についてもっと探求してほしい。

【参考図書・URL】

- ・数字で見るニセコ ニセコ町統計資料 2017年5月版
- ・北海道新聞 (平成29年7月23日) (平成29年8月23日)
- ・ニセコ町ホームページ <http://www.town.niseko.lg.jp>
- ・経済総合研究所 「住民自治を制度化したまちづくり 北海道ニセコ町」
http://www.esri.go.jp/jp/prj/mytown/suisho/su_07_0604_01.html
- ・北海道で暮らそう <http://kuraso-hokkaido.jp>
- ・アルパックニュースレター 194号
http://www.arpak.co.jp/newsletter/194/nl194_03.html

G I 探究報告書

高 1 年 SS クラス 6 番 0.N

【メインテーマ】

人との共生

【サブテーマ】

ニセコ研修～多文化共生のための地域作りに必要なこと～

【探求テーマ】

ニセコと海外の都市(カナダ・ウィスラー)との比較

【探求内容】

ニセコとウィスラーの町づくり

・現在の町になるまでの過程

(ニセコ)

ニセコ町に人が定住するようになったのは、明治27年頃である。新天地を求め、本州からの人々は人跡未踏の地を開拓し、大正から昭和にかけては羊蹄山ろくに農産物を集積する倉庫が作られ、現在も残っている。昭和39年、ニセコ連峰が国立公園に指定されると、ニセコ町の美しい風景が全国に知れ渡り観光業が盛んになっていった。そして同年10月1日、名を「狩太」から「ニセコ」に改め、観光と農業を中心とした町づくりが始まった。

(ウィスラー)

20世紀初頭に開拓がはじまった。初めて宿泊施設ができたのは1914年のことで、夏のリゾート地として有名であったが、1960-1970年代にかけて雪質や交通の便など、スキー場としての高い資質が注目され都市開発が行われた。1975年には「ウィスラーリゾート自治体」として州にも認められ、リゾート開発の自治運営権を得た。

・行っている取り組み

(ニセコ)

「住むことが誇りに思えるまち」をテーマに活動しており、“情報共有”と“住民参加”を大切にしている。例えば、会議は全て公開して行っており、予算案書は町民たちに見やすいよう工夫されている。また、外国人移住者の増加により、「ニューズレター」というものを発行している。これは、私たちの学校でいう「聖雪」のようなもので、ニセコ町役場にいる外国人職員が自国の言葉に訳して世界に発信している。

(ウィスラー)

成長管理(※)政策のCDP(包括的開発計画)の中で、「“コミュニティー”と“リゾート”の両立」をめざしており、環境保全への配慮やバリアフリーなどの社会的公平を果たした秀逸なリゾートの実現を可能にしたといえる。また、ウィスラーではインフラのキャパシティーが足りないために開発のスピードを落としたことがあった。それはその街に住んでいる生活レベルの健全性(足りていない公共事業の整備など)を十分に高めることができ、住民の不満を解消する努力を政策的に行えた。

※成長管理…基本概念は「開発を前提としながら自然環境や社会環境を損なうことなく管理しつつ成長をとげる」ことで、比較的短い歴史の中で急速に発展し

た北米の都市政策の一手法である。

・ニセコの現状

1980年代までは減少していた人口が現在増加しつつある。これは珍しいケースで、外国人観光客や移住者も増加している。観光客(道内外)数を月別で見ると、1月と8月にピークを持つ二峰型で、スキーシーズンの冬と様々なアクティビティが楽しめる夏に魅力を感じる人が多いからではないかと、ニセコは考えている。10月には、2007年から「ニセコハロウィン」という行事を行っており、コスチュームコンテストやローカルフードカーニバルなど様々なイベントを開催している。また、ニセコは「行ってよかった道の駅」ランキング2016で全国3位をとっており、最近では温泉もニセコの魅力の1つとなっている。そのため町内のホテル数を増やそうとしているが、ニセコでは今高級化が進んでおり、別荘でも1区画10億円を超える物件もあり、一般人が手を出しにくい価格である。長期滞在者や住民のためのスーパーも若干足りていないが小さい町なので大型スーパーなどを取り入れては管理が大変であるため取り入れていない。ニセコ町役場で働いている外国人職員の方にそのことを伺うと、「生活には困っていないし、買い物は隣町の倶知安に。でも、車はあったほうが便利。」と言っていた。また、「自然と人工物が共存できていて良いと思う。」とも言っていた。

【見出した課題とその理由】

私が考えるニセコの課題は2つある。1つ目は「地域内での利益の循環をしっかりとさせる」ことである。ニセコは、洗濯や備品の調達などの関連サービスの多くを町外の企業に頼っている。そのため、250億円のうち81億円も町外に流出してしまっている。また、人手不足も町外頼みの原因に直接ではないが関わっている。分析では、町が町外からお金を稼げている唯一の産業が観光ではなく農林水産業であることも判明した。農林水産業の運輸や小売りなど幅広い業種は町外に流れるお金を多くしてしまい観光投資をテコに町全体が潤う好循環に結びつけられていないからだ。2つ目は「交通の便をもっと良くする」ことである。研修先の1つであった、ニセコ町役場でいただいた「ニセコ町観光ガイド」の鉄道(札幌・小樽方面から)のアクセスを見ると、小樽ーニセコ間の部分に「本数が少ないので、接続にご注意ください」と書いてあった。函館本線で調べてみると、6時・8時・9時・12時・17時・18時・21時に一本しかなく、札幌から行くまでにかかる時間も最低約3時間であった。距離の問題はどうすることもできないが、1つ目の課題の「人手不足」を改善するためにも電車の本数を増やすことは無駄なことではないのではないかと考える。

一方でウイスラーの課題は1965年から開発が急速に進み、バンクーバーからの高速道路の開通、リフト・ホテルの利用者数の増加傾向などメリットがたくさんあるが日帰りで帰ってしまう人の割合が9割を超えてしまっており、宿泊施設の採算割れや湖の水質汚染などが問題となっている。ウイスラーはニセコと比べるとインフラも整っておりお金も無駄に町外に流出していない。観光業職事者の9割が地元住民である。しかし、ニセコが人工物と自然が共存できているのに対し、ウイスラーは湖の水質汚染などという環境破壊に繋がるような課題があるということがわかる。

【課題解決策】

私自身、ニセコ研修の昼食で食べたトマトやレタス、デザートで使用されていた牛乳などの食材がとても美味しかったのを覚えており、母にたくさん「ニセコの野菜が美味しかった！」と伝えた記憶がある。私は寄宿生ではないが、寄宿のご飯にニセコの野菜を使用してはどうかと考える。そうすれば地産地消にもつながるのではと思う。だが、先ほども述べた通り、農林水産業の運輸や小売りでニセコのお金が町外に流出してしまっているのが現状だ。

【下級生への引継事項】

下級生には、ニセコの基本情報などニセコについて様々なことを調べていくにあたり、財政(特に支出)に気を配ってほしいと思う。課題の部分にも記載したが、ニセコは備品の調達など多くの関連サービスを町外の企業に頼っている。町の稼ぎも伸び悩んでおり、14年度の納税義務者1人あたりの課税対象者所得は約240万円となっており、5年間で約12万円減った。高級化が進んでいる影響もあってか、不動産開発などで固定資産税が増加傾向にあるため根本的な改善は不要だが、多くの関連サービスを町外に頼り、それによってお金が流出しているのであれば少し気にしてほしい。また、インフラの整備も同様で、外国人職員の方が「買い物は隣町の倶知安に行く」と言っていたが、ニセコから倶知安まで車で約30分、普通電車で約90分かかる。その距離を往復するとなると時間がかかってしまう。大型でなくても、ちょっとしたスーパーがあれば住民の暮らしも楽になると思うので、そこはどうなっているのか、またはどうなったのかを探求してほしい。

【参考文献】

- ・読売新聞(2017. 6. 22)
- ・環境と共生するリゾート～カナダ・ウイスラーを訪れて [コラムvol.210]
→<https://www.jtb.or.jp/column-photo/column-canada-nakajima>

日本心最も美しい村連合

日本心最も美しい村連合とは
 2005年に美瑛町長の呼びかけによりスタート。
 東川町ワッコの町下9カ所を結んだ。
 (北海道美瑛町、赤井川村、山物最大蔵村、岨果也川村、長野最大蔵村、赤高森上野町、
 熊手集南小園町)
 ワッコの最も美しい村運動を主体としている。
 町民の2層と観光客の山景・文化面を保護している。
 観光客の増加により、農業と観光が相乗効果を生み出している。5年がかりに農畜産物が増え、
 奇加町村数64(30町24村10地域)※ 2016年10月9日現在
 連合の代表者：美瑛町長の秋田哲(はなだ さん)
 日本心最も美しい村連合11カ所ワッコの村の開墾史、知照町村開墾の文化、
 信託を行っている。

美瑛町の村がくまの連合の共通性
 日本心最も美しい村推進事業
 町民と共に美化運動や、子ども連れの環境にふさわしい教育を行う。している。
 日本心最も美しい村がより活動を推進している。
 日本心最も美しい村推進事業
 町民と共に美化運動や、子ども連れの環境にふさわしい教育を行う。している。
 日本心最も美しい村がより活動を推進している。

連合に加盟する村の条件
 ① 人口が概ね1万人以下であること
 ② 地域資源が2つ以上あること(景観に魅力、文化に魅力、1つ)
 ③ 連合が計画する地域政策、原を者から活動がわかること
 (景観に魅力、町づくり、住居による工夫した地域活動、
 工芸品史を核とした地域政策を推進していること)

美瑛町の特長
 面積の90%が山林、15%農地
 町政費、小費、15%以上、且美瑛町が中心
 連合の目指すもの
 日本心最も美しい村を宣言すること
 ・暮らしを豊かに
 ・地域の活性化と自立を互換する
 ・景観、文化を守る
 この3つを踏まえ、見聞の価値を高め、資源の持続と経済の
 発展につなげる!!
 心連合のテーマ
 この心連合のテーマは、美瑛町を核とした地域の発展を促すこと。



The most beautiful
villages
 in japan

日本心最も美しい村連合の目的
 ① ガッコの価値を高める活動の推進
 ... 地域の活性化を支援
 ② 人口減少と高齢化の対策
 ... 交通人口の増大と地域経済に貢献
 ③ 連合の組織の強化
 ... 組織の質の維持、強化
 ④ 理解者の拡大
 ... 観光客の増加を促進、普及する
 ⑤ 連携、交流の強化
 ... 相互理解と相互支援の促進

目的の意見
 美瑛町は、日本心最も美しい村連合に加盟する村として、村を主体とした自然の保護と観光地としての運動を
 行っている。また、美瑛町は、連合に加盟する村として、最も美しい村としての責任を担い、
 全国に活動の場を広げようとしていることだ。また、今回の取り組みは、町民の生活の質を向上させることだ。
 他の方々の人にも理解してもらいたい。町民の生活の質を向上させることだ。また、町民の生活の質を向上させることだ。
 参考文献 ① www.kantei.go.jp/ ② www.mpa-honpage.go.jp/

G I 探究報告書

高校 1 年 SS クラス 番 氏名 0.A

【メインテーマ】

人との共生

【サブテーマ】

美瑛研修 ～多文化共生のための地域作りに必要なこと～

【探究テーマ】

富良野について

【探究内容】

～富良野とは？～

富良野の語源はアイヌ語のヌフライ（臭・もつ・所）が転訛した説が有力だ。富良野川の水源が十勝山であるために硫黄の臭気を含むことから呼ばれたと考えられる。気候は平均気温7.5度、最高気温33.2度、最低気温-25.3度である。面積は600,71km²、人口は24,259人だ。人口の内訳は0歳～14歳3,155人、15歳～65歳14,591人65歳以上6,512人である。おもな農作物は玉ねぎ、にんじん、カボチャ、アスパラガス、スイートコーン、メロン、スイカ、加工用ぶどうなどが挙げられる。



ファーム富田(富良野)

明治29年に富良野原野殖民地区画の設定され、明治30年福岡県出身の中村千幹らが現在の扇山地区に入植したことから始まる。

～富良野の観光業の特徴～

富良野には様々な観光名所がある。7月頃にラベンダーが満開を迎えるファーム富田、富良野チーズ工房、富良野わいん工場、富良野スキー場などがある。富良野チーズ工房でつくられる日本で唯一のワイン入りチーズ、富良野チーズや富良野ワイン工房でつくられる富良野わいんは富良野でブランド化された名物である。またそのほかにも富良野メロン、全て富良野産の食材を使用した富良野オムカレーなどがある。また観光名所だけではなく、修学旅行生の受け入れや、長野県の管平高原のように富良野市も合宿の町として近年発展させようとしている。

～美瑛町との違いは何か？～

まず美瑛の語源はアイヌ語でピイエ（油ぎった川）からきている。美瑛川の水源である硫黄山があり、水が白濁し油のようであるからと考えられている。気候は平均気温5.6度、最高気温30度、最低温度-15度である。面積676,78km²と東京23区とほぼ同じ大きさで、人口は10398人ある。主な



オムカレー(富良野)



青い池(美瑛)



カレーうどん(美瑛)

農作物はアスパラ、ジャガイモ、トマト、カボチャ、小麦、米などが挙げられる。明治27年江別太に入植した。

美瑛の観光名所としてケンとメリーの木、色彩の丘、青い池、などが挙げられる。また「赤麦を守る会」「ふるさと市場」「カレーうどん研究会」などを通し地産地消にも心がけている。これらのことを踏まえ富良野と美瑛の違いについて考えてみた。まず富良野の方が寒さが激しく果物が育つには適した環境のため、果物の名物が富良野町の方が多い。次に観光名所は富良

野町は花に関するの名所が多いのに対し、美瑛は丘や木などの名所が多いのが特徴だ。また美瑛、富良野に共通して言えることは地産地消に力を入れていることである。またフィールドワークに行くと美瑛町はいろいろな立場の人が集まりルールを決める写真フォーラムを開催していることを知り、美瑛町は皆が気持ちよく暮らせるようにコミュニケーションをとれていて共生できていると思った。

【見出した課題とその理由】

～若者が都市部へ流れて行っている～

若者が都市部へ流れていくことで、町の産業の発展が滞ってしまっているから課題と考えた。

【課題解決策】

美瑛町は高校、大学が1校ずつしかなく進学する際、関東や関西などの都市部の学校へ行く人が多い。そのためそのまま就職も都市部でする人が多いのだと思う。だから私は美瑛町にも高校や大学の数をもう少し増やし、美瑛町の学生が地元での進学をもっと考えられる様にしたら地元で就職する人も増えるのではないかと考えた。またその他にも美瑛町は自然豊かなところがいいと思うので、美瑛町の学生が美瑛町の良さを学べる機会を増やせば良いと思った。また沖縄県那覇市の小学校が地域の良さをまなぶ体験学習を工夫しています。小学校の教員が、発見や疑問が生まれるような学習活動の工夫を行ったり、主体的に学習が進められるようなワークシートを作成・活用するなどして地域の良さを伝える工夫をしているので、美瑛町もまねたらいいと思います。

【下級生への引継事項】

美瑛町について現地に行ってから初めて分かったことや、事前学習で調べたことが実際現地に行ったら少し違っていたりして、実際に現地に行くと初めて分かることが多くあり、とても面白いので、事前学習はしっかりやり、美瑛町についてよく理解したうえでフィールドワークに行ったら学び多いものになると思う。

【参考図書・URL】

<http://www.city.furano.hokkaido.jp/>

<http://folklore2006.jp>

<http://www.furanotorism.com/jp/ふらのindex>

<http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/research/staff/kado/takigami2005.pdf>

<http://www.town.biei.hokkaido.jp/>

<http://www.tabirai.net/sightseeing/tatsujin/000024.aspx>

http://www.nahaken-okn.ed.jp/naha-c/ken_pdf/81/635.pdf

グリーンツーリズム北海道からの発信(長尾正克,筑波書房,2011年3月25日)

G I 探究報告書

高校 1 年 SS クラス 番 氏名 S.T

【メインテーマ】

人との共生

【サブテーマ】

タイ体験学習～人との共生について必要なこと～

【探究テーマ】

タイとミャンマーの国境紛争

【探究内容】

《アユタヤ朝とビルマ》

アユタヤ朝とは、バンコクの約65km北方にあるタイ中部の都市、アユタヤに首都を置いたタイ族の王国である。1351年にラーマティボディ 1 世によって建設され、417年間続いた。アユタヤは、アユタヤ朝の陥落に伴って現在は一地方都市に過ぎなくなった。

ビルマとは、現在ミャンマーと呼ばれている、タイの西側に位置する国である。タウングー朝の時代にはタイ諸王国を攻略して強大な王国に成長した。1989年に国名をビルマからミャンマーに改めた。

1531年、ビルマのダビンシュウェティ王がビルマを統一すると、アユタヤはしばしばビルマ軍の攻撃を受け、1569年に陥落したが、1584年にナレースエン大王がビルマ軍を撃退して、アユタヤ朝は独立を回復した。

アユタヤ朝では、1758年にボーロマコート王が死去すると、後継者争いが起こり、この結果、エーカタットが王位に就き、彼はアユタヤ朝最後の王となった。

1767年にビルマ軍の侵攻を受けて、アンコール朝は滅亡する。このとき3万人の住民がビルマに連行された。

アユタヤ朝滅亡後に、タークシンはビルマ軍を撃退してトンブリーを首都とする、トンブリー朝をおこし、自らが王となった。しかし、狂気を理由に処刑され、トンブリー朝はこの一代で終わる。

トンブリー朝の後、現在の王朝である、バンコクを首都とするラタナコーシン朝が成立し、ラーマ 1 世が王となった。このラーマ 1 世とそのあとの 2 世の時代にもビルマからの軍事的な脅威は続いていた。イギリスによるビルマの植民地化が開始されるラーマ 3 世のときに、ようやくビルマによる攻撃はなくなった。

タイ		ミャンマー	
1238	タイ族がアンコール朝の スコータイを占領		
1259	ラーンナーがラーンナー王国の 王に即位	1287	モンゴルによりバガン朝が滅ぼされる
		1312	ピンヤ朝が成立する
		1315	サガイン王朝が成立する
1351	アユタヤ朝が成立する		
1432	アユタヤ朝がアンコール朝を滅ぼす		
1438	アユタヤ朝がスコータイ朝を滅ぼす		
		1486	タウングー朝が成立する
		1531	タウングー朝がアユタヤ朝を攻撃する
1569	ビルマ軍によりアユタヤが陥落する		
1584	ナレースワン王がビルマ軍を撃退する		
		1752	コンバウン朝がビルマを統一する
1767	ビルマ軍によりアユタヤが陥落する トンプリー朝が成立しビルマ軍を 撃退する		
1782	ラタナコーシン朝が成立する		
1809	ラーマ2世が即位する		
～24			
1824	ラーマ3世が即位する	1824	イギリスとの戦争でコンバウン朝が 滅亡する
～51		1948	イギリスから独立する
		1989	国名をミャンマーに改める

《アユタヤとビルマの争いと港としてのアユタヤの優位性》

タイとビルマとの間で争いがあったのは、ベンガル湾沿いの商港都市をめぐって所有権争いがあったためである。

チャオプラヤー川によって海洋と結ばれた地点に建設されたアユタヤには、季節風を利用して外洋を航海する大船が次々と入港することができ、港として発展する条件を備えていた。

アユタヤ朝の領土を拡大していくにあたり、ベンガル湾貿易への参入ルートを確保するため、メルギヤダヴォイ(現・ミャンマー南東部)などのベンガル湾沿岸諸港の確保に努めた。

1530年代、ビルマのダビンシュウェティ王は、ベンガル湾交易をめぐってアユタヤ朝のライバルであったペグー王国を攻撃した。これにより、港市ペグーを中心とする交易の利潤と豊かな人力を独占したビルマは、ポルトガル傭兵が操る強力な砲兵隊を主力として、1564・1569年の二度にわたってアユタヤを攻めた。当時、ヨーロッパ市場における胡椒の需要が急増していたため、アユタヤ攻略は、胡椒を中心とするベンガル湾貿易の指導権をめぐっての争いという側面が大きかった。1750年代には、分裂したビルマを再統一しようとする、アラウンパヤーがビルマ王としての地位を確立しつつあり、その軍事作戦はベンガル湾沿岸の諸港市からタイ湾側の都市を経て、アユタヤにまで及んでいた。

アユタヤはチャオプラヤー川、ロップリー川、パーサク川の三河川の合流点にあるため、それを利用して稲作が盛んであった。そしてここで生産した米を、米の自給が困難であったマレー半島やジャワ島などの周辺諸国に輸出し、利益をあげていた。また、アユタヤ朝では交易様々な分野に政府が介入していたため、交易の発展は直接的に王庫を富ますことに貢献した。王室は、交易に

よって得た利潤を近代兵品の購入や傭兵の雇用にあて、軍事力を強化した。

《現在の関係》

1992年からメコン川流域に位置するインドシナ半島の5つの国と中国・雲南省が協力して、経済発展をしようすることを目指す、「メコン圏構想」が始まった。タイはミャンマーとの交通網の整備として、1億バーツの無償資金協力を行った。これは、ミャンマーが長らくの戦闘や独自の社会主義路線により経済的に停滞していたためである。また、2003年には、ラオス・カンボジア・ミャンマーへの経済協力を行い、「エーヤワンディーチャオプラヤーメコン経済協力戦略(ACMECS)」と呼ばれるようになる。タイは資金を拠出して基金をつくり、周辺諸国への協力活動に使用した。タイは、1982年の第二次オイルショックで、経済が不安定となった際に世界銀行や世界通貨基金から援助を受けた。このようにタイは、「援助される側」から「援助する側」に変化した。

また、実際にタイへ研修に行き、タイの方に質問する機会があった。そこで私は「タイの国民は現在でもミャンマーに対して悪い印象を持っているのか」という質問をした。現在はもう嫌に思うことはないが、スポーツの大会で相手がミャンマーの時は、「絶対に負けない」と思うことがあるとおっしゃっていた。

【見出した課題とその理由】

事前学習で、タイで働くミャンマー人の不法滞在やミャンマーの難民がタイに大量に逃げ込んでいるということを知った。実際にタイに行き、プラティープ財団を訪れた。プラティープさんのお話の中で、スラム地区で生活する人々の中には、ミャンマーから来ている人もいるとおっしゃっていた。自分の国を出てまで、タイに働きに来るということはタイとミャンマーで賃金の格差があるからだ。この賃金の格差が不法滞在者の原因の一つであり、解決すべき課題であると感じた。

【課題解決策】

ミャンマーを含め、タイには周辺諸国からの不法滞在者が多くいることが分かった。この不法滞在者がスラム地区で生活している。タイ政府は、不法滞在した外国人に対し、最長で10年間再入国を禁じるなどの対策をとっている。また、2016年にタイとミャンマーの代表が不法滞在抑止策に合意した。難民問題については、2016年に難民の一部がミャンマーに帰国した。

しかし、実際にタイでお話を聞く中で、まだミャンマーなどの周辺諸国からの不法滞在者が多くいると知り、改善されていないようだった。

タイに多く残る不法滞在者を減らすため、自国で生活できるように、タイ政府だけではなく周辺諸国も自国の賃金や労働環境を見直すなど、不法滞在者を取り締まるのではなくその方たちが自立した生活を送ることができるような政策を立てるべきだ。

【下級生への引継事項】

タイはミャンマーに攻撃され、首都を二度も陥落させられたという過去を持ちながらもミャンマーに対して支援を行った。「人との共生」という点で学べることが多くある。私は一人の方にしかお話を伺うことができなかつたので、タイに行ったらもっと多くの方の意見を聞いてほしい。

【参考図書】

- 「物語 タイの歴史 微笑みの国の真実」
柿崎一郎 著/2007年9月25日/中央公論新社 出版
- 「知っておきたい 東南アジア I」
歴史教育者協議会 編/1994年8月25日/青木書店 出版
- 「世界大百科事典 1, 16, 19, 20, 27, 29 巻」
下中直人 編/2009年6月1日/平凡社 出版
- 「望遠郷 3 タイ」
ガリマール社・同朋舎 編/1994年8月23日/同朋舎 出版
- 「もっと知りたい タイ 第2版」
綾部恒雄・石井米雄 編/1995年3月30日/光文堂 出版
- 「体験取材！世界の国ぐに 19 タイ」
渡辺一夫 文/2007年3月/ポプラ社 出版
- 「体験取材！世界の国ぐに 20 ミャンマー」
佐々木ときわ 文/2007年3月/ポプラ社 出版
- 「世界年鑑 2017」
一般社団法人共同通信社 編/2017年3月13日/共同通信社 出版